

公益社団法人 蓮田市シルバー人材センター

第3次事業推進計画

2023年度 ～ 2027年度

(令和5年度 ～ 令和9年度)



自主・自立

センターを自分たちのこととして考え、自分たちの力で育てる

共働・共助

共に働き、互いに助け合い、より良い環境整備に取り組む

(会員制組織であるセンターの基本理念)

～ 目 次 ～

	開始頁
I 計画の目的	2
II 計画の期間	2
III 目標値	3
IV 施 策	
1 会員の増強	4
2 就業機会の拡大	8
3 安全・適正就業の徹底	10
4 地域に根差したセンターづくり	12
5 財政基盤の強化	13
6 組織運営の強化	13
7 施策の推進確認	14
8 本計画で目標とする SDGs 項目	14

I 計画の目的

蓮田市シルバー人材センター（以下「センター」という。）は2013年度（平成25年度）から5カ年の第1次中期計画、2018年度（平成30年度）から5カ年の第2次中期計画を策定し、さらなる発展を図るため各種事業を推進、実施して参りました。

しかし、2019年度（令和元年度）後期から社会問題となった新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）は、センターのあらゆる事業運営に多大な影響を及ぼし、一方で65歳までの雇用確保措置や70歳までの就業確保措置（努力義務）などにより、高齢者が企業で働き続けられる環境が整えられてきたことによるセンター新規入会者数確保が難しくなっています。

このような状況の中、第2次中期計画の実績を踏まえ、更なる発展を期し、より現実的な目標値を掲げ着実な事業実施を図る目的で、第3次事業推進計画（中期計画）を策定するものです。なお、センターでは地域の高齢者が働くことや、ボランティア活動をはじめとするさまざまな社会参加を通じて、健康で生きがいのある生活を送ることのできる環境を整えることにより、持続可能な社会の実現を目指します。

センターでは次に掲げる4項目を重点課題と位置づけ、事業を推進してまいります。

- 会員の増強及び就業機会の拡大
- 安全・適正就業の徹底
- 地域に根差したセンターづくり
- 持続的に成長可能な経営基盤づくり

以上の重点課題を実現するため多角的な普及啓発活動を展開します。

II 計画の期間

2023年（令和5年）4月1日から2028年（令和10年）3月31日までの5年間とし、環境の変化等必要に応じて計画の修正を行なうものとする。

Ⅲ 目標値

年 度	期末会員数	粗入会率	就業率	契約金額
2023 (令和5)	502人	2.19%	95.1%	273,207千円
2024 (令和6)	504人	2.20%	95.2%	274,573千円
2025 (令和7)	506人	2.21%	95.3%	275,946千円
2026 (令和8)	508人	2.21%	95.4%	277,326千円
2027 (令和9)	510人	2.22%	95.5%	278,712千円

* 期末会員数：2022年度（令和4年度）期末「500人」と想定し、毎年2名増加を
目標と設定

* 粗入会率：会員数÷蓮田市統計60歳以上人口

* 60歳以上人口：蓮田市人口統計2022年（令和4年）10月「22,935人」を基準に、
その後横ばいと想定（蓮田市「人口ビジョン」資料より）

* 就業率：2022年度（令和4年度）実績予測「95.0%」を基準に毎年+0.1%の
伸びを想定

* 契約金額：受託事業と派遣事業の合計で、令和4年度実績予測「268,900千円」を
基準に算出

IV 施策

1 会員の増強

「現状」

- 2021年度（令和3年度）末現在の会員数は500人と、第2次中期計画初年度である2018年度（平成30年度）から11人減少した。
- 入会説明会を月1回定例開催しているが、月により2～14人と参加人数にバラつきがある。
- 2020年度（令和2年度）～2021年度（令和3年度）はコロナ禍による影響を大きく受けたが、会員数はいきいき埼玉主催の会費無料キャンペーンの活用等で微少にとどめることができた。
- 在籍会員の平均年齢が年々上昇し、2021年度（令和3年度）は73.6歳となり、2018年度（平成30年度）の72.9歳と比べて0.7歳上昇した。
- 2021年度（令和3年度）末現在の女性会員の割合は25.4%で、全国平均34%、埼玉県平均31.8%を下回っている。
- 女性会員の獲得を目的とした「女子会」企画の一般市民の参加が少なかった。
- 退会理由は病気、加齢、介護といった健康による理由が56%、他で就職、希望する仕事がないといった仕事に関する理由が22%となっている。
- 新入会員研修は、ほぼ全員が入会后2カ月以内に参加している。

「課題」

- 新規会員の拡大、とりわけ女性や60歳代の方の入会促進対策の強化が必要である。
- 会員の健康の維持増進、就業先の確保、仕事は希望しないが地域活動や会員との交流を望む会員の活動場所の展開、退会抑制の対策、入会手続きの方法が今後の課題である。

「 施 策 」

新規会員の拡大

- 入会説明会の内容の充実及び開催日、開催回数等の検討を行う。
- 入会促進のためのキャンペーンの検討を行う。
- 新たな宣伝ルートの開拓を行う。
- ホームページを積極的に活用する。
- チラシ、ポスター等による広告を行う。
- 会員による知人や家族などの入会勧奨を強化する。
- センターをPRするためのイベントの開催や地域イベントへの参加を通じ、シルバー事業を広め、入会を促進する。
- 市民対象の研修を開催し、入会を促進する。
- 新入会員研修を実施する。
- 会費のあり方を検討する。
- 入会手続き方法を検討する。

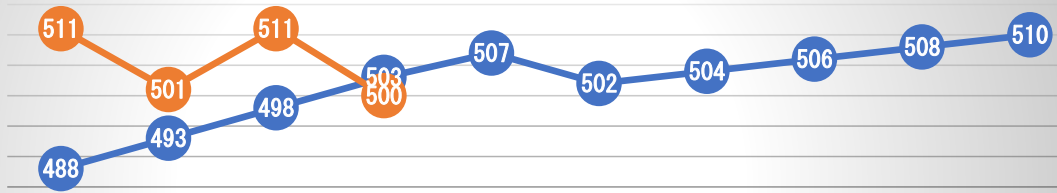
女性会員の拡大

- 女性会員の割合30%を目指した事業を展開する。
- 「女子会」による女性向けのイベントを開催し、参加者の入会を促進する。
- 女性会員の活躍の場として期待のできる家事援助サービスの就業会員のグループを育成し、受注拡大を図る。
- 就業および独自事業における女性の活躍場所の確保拡大を図る。

退会の抑制

- ローテーション就業やワークシェアリングを徹底し、未就業会員対策の強化を図る。
- 地区及び地域班を主体としたボランティア活動への参加等を図り、会員相互の親睦を深める。
- フレイル予防対策を講じ、会員の健康の維持増進を図り、就業可能期間を伸延し、退会抑制を図る。
- サークル等の会員の居場所づくりの検討を行う。

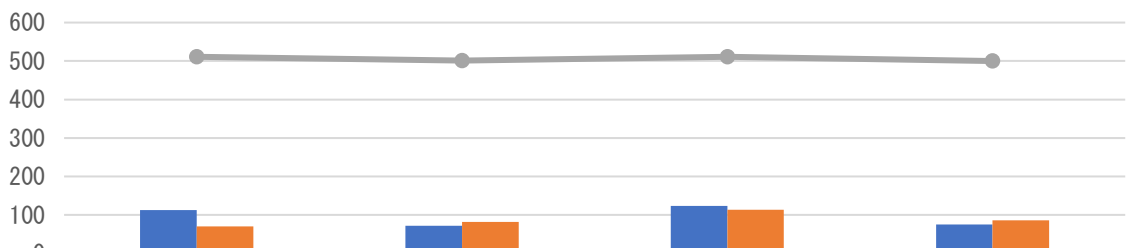
期末会員数（目標・実績）



	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	2027 (R09)
● 目標値	488	493	498	503	507	502	504	506	508	510
● 実績値	511	501	511	500						

● 目標値 ● 実績値

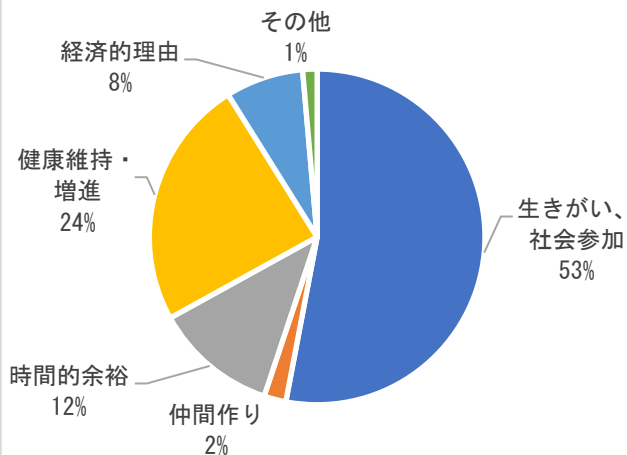
会員数推移



	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)
■ 入会者数	112	72	123	75
■ 退会者数	70	82	113	86
● 期末在籍	511	501	511	500

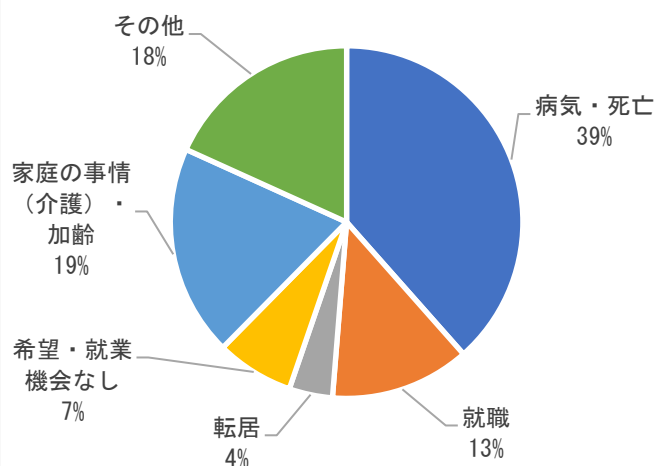
入会動機

(2018年度～2021年度延人数)

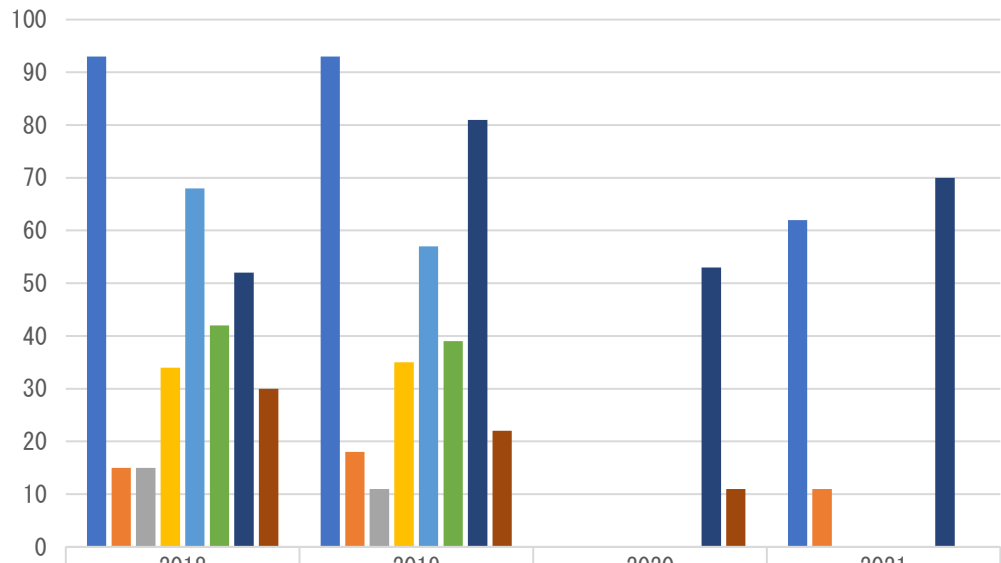


退会理由

(2018年度～2021年度延人数)



研修・講習参加延人数



	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)
■ 植木	93	93	0	62
■ 草刈	15	18	0	11
■ 青パト	15	11	0	0
■ 救命講習	34	35	0	0
■ 安全大会	68	57	0	0
■ 料理教室	42	39	0	0
■ 新入会員	52	81	53	70
■ 生活支援サービス	30	22	11	0

2 就業機会の拡大

「現状」

- 2021年度（令和3年度）の就業率は95.8%、契約金額はコロナ禍の影響を受けながらも、266,501千円と前年度から5,453千円増加（対前年度比102.1%）となり、いずれも第2次中期計画の目標値を達成することができた。
- 新聞の求人広告等では、専門的な業種や清掃、福祉関係の募集が多い。
- 清掃、福祉関係の仕事を希望する会員は少ない。

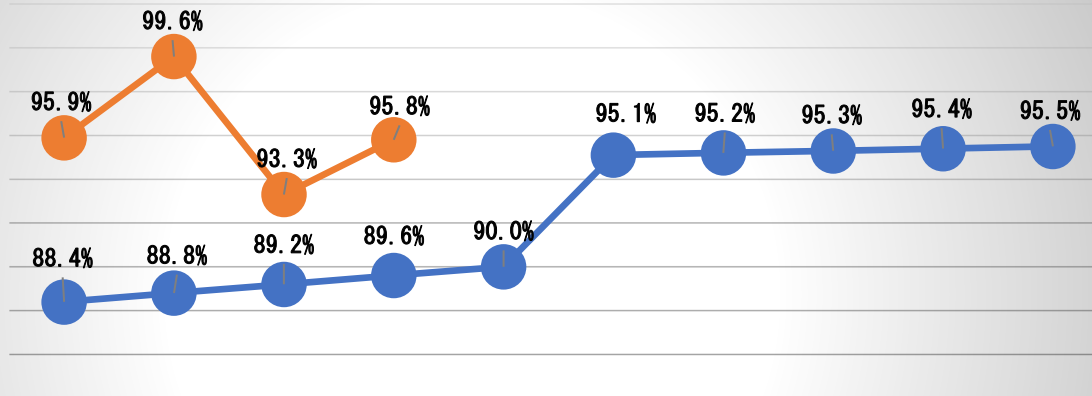
「課題」

- 会員の高齢化が進行する中、高齢会員の就業先確保が必要である。

「施策」

- 新規就業先開拓として、民間企業への訪問活動を行う。
- 高齢会員が就業し易い、公共業務の受注拡大を図る。
- 多様な働き方が可能となるシルバー派遣事業の新規契約に取り組む。
- 既存就業先への訪問活動を行い、就業機会の継続性を高めるとともに、受注業務の拡大を図る。
- 子育て世代を支援する業務の拡充に取り組む。
- 未就業会員への就業意向アンケート調査を行い、現況を把握し、就業紹介に活用する。
- 蓮田市や企業に向けた広報活動を行う。
- 女性会員の就業機会の拡大を図る。

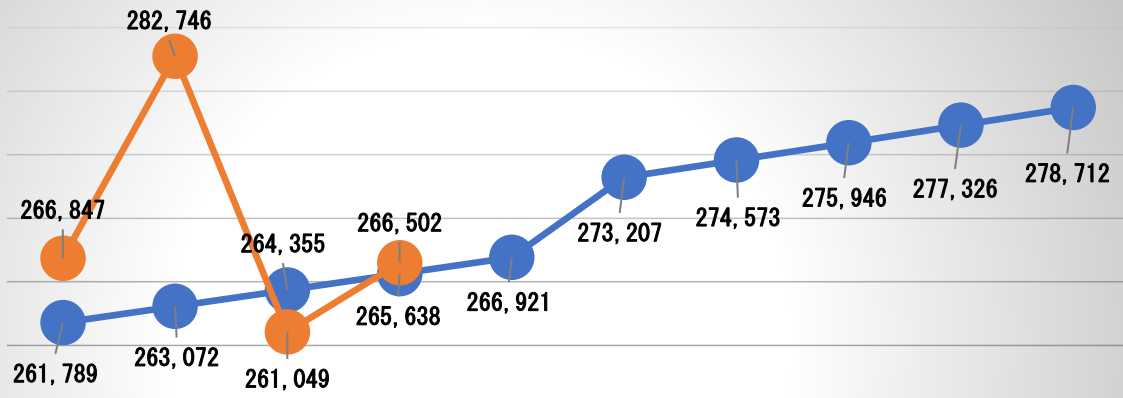
就業率推移（目標・実績）



	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	2027 (R09)
● 目標値	88.4%	88.8%	89.2%	89.6%	90.0%	95.1%	95.2%	95.3%	95.4%	95.5%
● 実績値	95.9%	99.6%	93.3%	95.8%						

● 目標値 ● 実績値

契約金額（目標・実績）



(単位：千円)

	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	2027 (R09)
● 目標値	261,789	263,072	264,355	265,638	266,921	273,207	274,573	275,946	277,326	278,712
● 実績値	266,847	282,746	261,049	266,502						

● 目標値 ● 実績値

3 安全・適正就業の徹底

「現状」

安全就業

- 除草・草刈・植木作業で事故発生率が高い。
- 刈払機使用（除草・草刈）による飛び石や配線切断の損害賠償事故が多発している。
- 作業前の危険箇所の確認・対応準備、作業後の確認が不足している。
- 植木、除草、草刈作業において定められた就業予定表や安全就業点検表、KYT報告書が提出されていないケースがある。

適正就業

- 適正就業ガイドラインや就業に関連する法令等について、発注者や会員への周知及び理解の促進が不十分。

「課題」

安全就業

- 安全就業基準等の遵守徹底を図り、事故「ゼロ」を目指した取り組みを推進する必要がある。

適正就業

- 適正就業ガイドラインや就業に関連する法令等について、発注者や会員の理解を深める必要がある。

「施策」

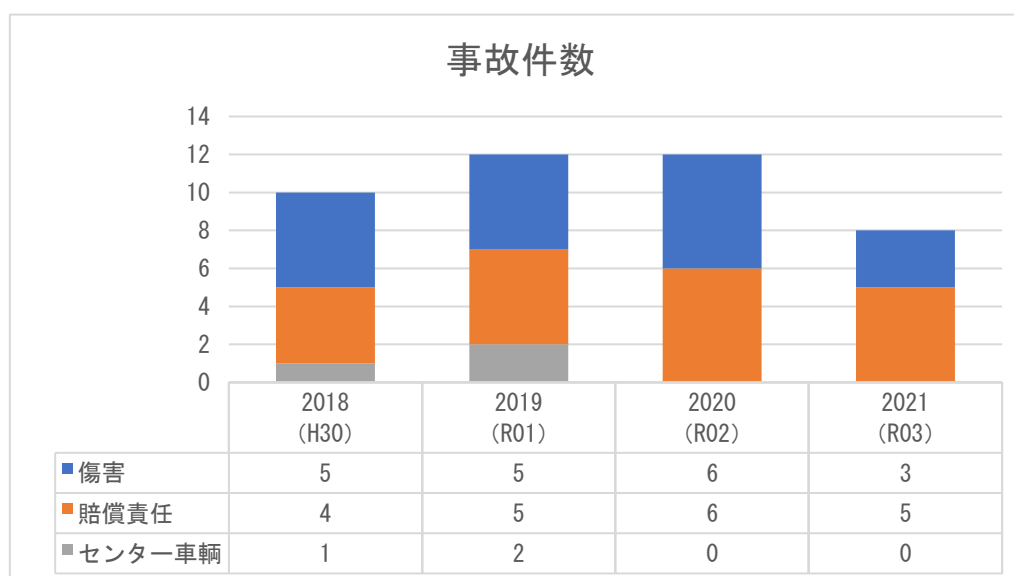
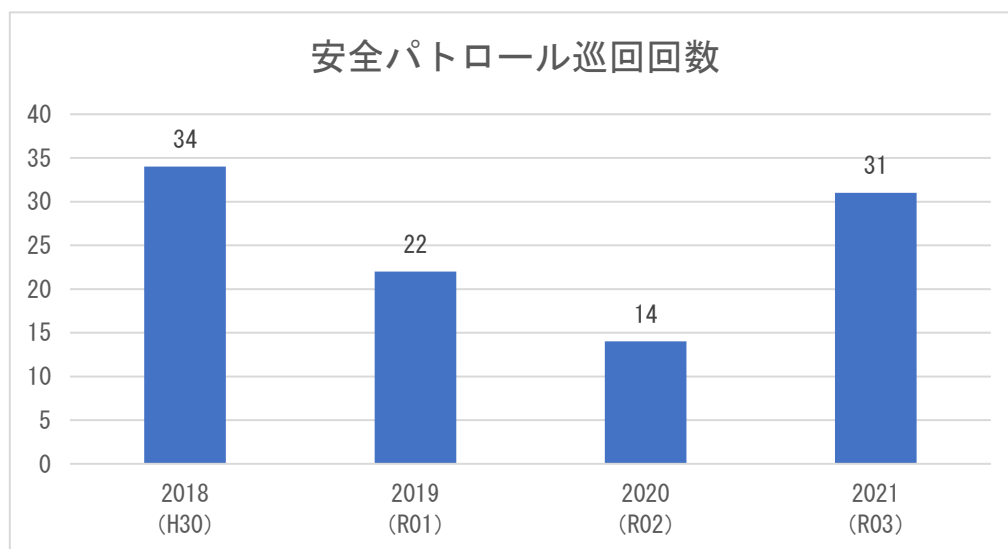
安全就業

- 安全巡回パトロールを実施する。（定例及び天候や作業スケジュールに応じた臨時巡回）
- 危険を伴う機械器具（刈払機・チェーンソー）の安全な使用方法等について研修会・講習会を実施する。
- 会員教育の要である現場責任者（リーダー）の教育に重点を置いた研修・講習を実施する。

- 事故やトラブルの発生事例を速やかに情報共有し、再発防止に努める。
- 「安全就業標語」の募集を実施し、安全就業に対する関心、意識の高揚を図る。
- 植木、除草、草刈作業において定められた就業予定表や安全就業点検表、KYT報告書の提出の徹底を図る。

適正就業

- 適正就業ガイドラインや就業に関連する法令等について、発注者や会員へ周知及び理解促進を図る。
- 適正就業ガイドライン及び各種関係法令に沿った契約を徹底する。
- 長期就業是正のため、ワークシェアリングやローテーション就業を推進する。



4 地域に根差したセンターづくり

「現状」

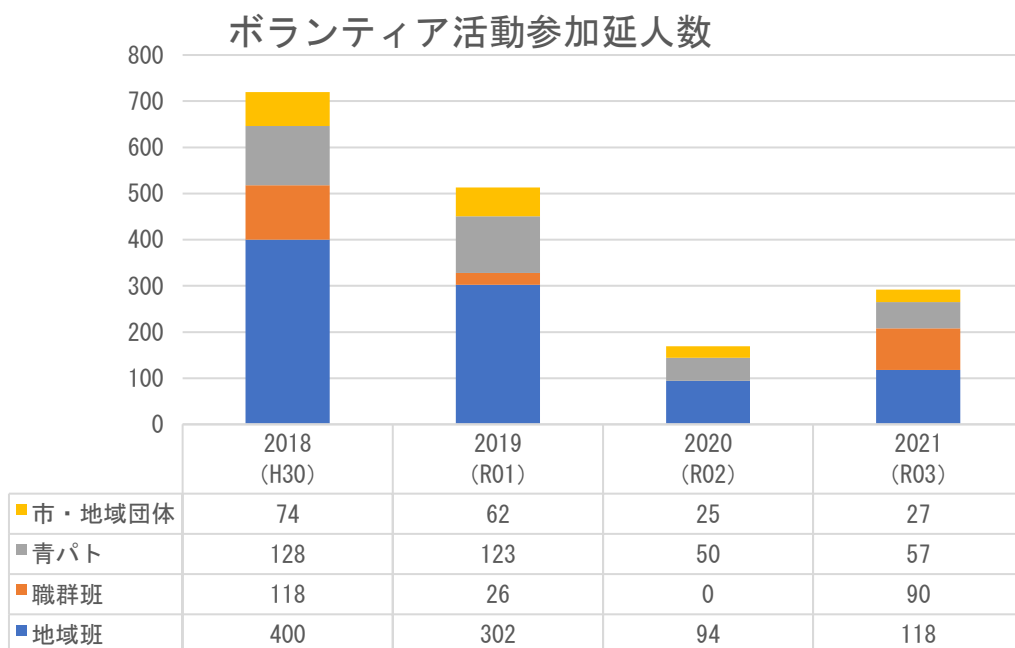
- ボランティア活動の参加率は30～50%という地区が多い。
- コロナ禍で市及び地域イベントの自粛により、交流が出来なかった。

「課題」

- 市内全域での活動など地域班の実情に応じた多様な展開が必要である。

「施策」

- 市内関係団体と日常的な協力体制を通して、地域のニーズ把握に努め、地域の活性化の核となる組織を目指す。
- コロナ禍の制限緩和に合わせて、地域班によるボランティア活動を推進する。
- 青色回転灯自主防犯パトロール（青パト）を実施する。
- センターをPRするためのイベントの開催や地域イベントへの参加を検討する。
- 市又は地域イベントへ会員の積極的参加を呼び掛ける。



5 財政基盤の強化

「現状」

- コロナ禍による一般企業の業績悪化による、受注件数の伸び悩みが起きている。
- 物価高騰および2023年（令和5年）10月から施行されるインボイス制度により、センターの財務負担の増加が懸念される。

「課題」

- 安定した財源確保のため、受託事業及び派遣事業の受注の確保が必要である。
- インボイス制度への適切な対応が必要である。

「施策」

- 現在の請負契約を適正就業ガイドライン等に沿い見直すとともに、新たな受託事業及び派遣事業の契約を増やし、財源を確保する。
- インボイス制度の施行によるセンターへの納税額について情報収集を行い、適切な対応を図る。

6 組織運営の強化

「現状」

- ICT化に向けた情報収集及び計画の検討に着手した。
- 地区・地域班の地区長、班長のなり手が少なく、長期就任傾向にある。
- 女性会員の組織運営活動への参画率が低い。

「課題」

- 更に、時代や社会に応じたICT化の推進が必要である。
- 会員の組織活動参加に対する理解を深める必要がある。
- 女性会員の組織運営活動への参画を推進する必要がある。

「施策」

- ICT化推進により理事会、委員会、事務局の連携の強化、事務の効率化、事務手続きの簡素化、ペーパーレス化に取り組む。
- 地区・地域班体制の見直しを検討するとともに、会員の組織活動への理解を深める活動を展開する。
- 女性会員の理事会や委員会への積極的参加を推進する。
- 会員アンケートを実施し、会員の状況把握と満足度アップを図る。

7 施策の推進確認

「現状」

- PDCAサイクルによる施策の推進確認を目的とし、「年間スケジュール進捗確認表」、「事業進捗管理表」を作成している。
※PDCAサイクルとは、計画・実施・検証・是正を繰り返し、事業などを改善すること。
- 予算執行状況を「予実管理表」に基づき管理している。

「課題」

- PDCAサイクルによる施策の推進確認を徹底する。

「施策」

- 「年間スケジュール進捗確認表」、「事業進捗管理表」、「予実管理表」により事業及び予算の進行管理を行い、その結果を事業推進に反映する。

8 本計画で目標とするSDGs項目

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための目標」である。センターはこの目標実現に向けて意識して行動することが重要であることを念頭におき、SDGsの視点を踏まえた計画を実施する。



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワーク（適切な雇用）を推進する



都市を包摂的、安全、レジリエント（回復）かつ持続可能にする



公正、平和かつ包摂的な社会を推進する